

## 追悼

# 山本健吉会長のご逝去を悼む

本会の山本健吉会長が 9 月 3 日に急逝されました。満 74 歳でした。

思い起こせば、本会は平成 6 年に発足しましたが、紆余曲折があり平成 22 年頃は会の存続が危ぶまれていました。そんな時に、立て直しの適任者として白羽の矢が立ったのが山本さんでした。平成 23 年 4 月の総会で会長に選任され、併せて事務局長も兼ねました。負担が大きいのではないかとの声がありましたが、「兼任の方が自由に動けるでしょう」という、宮崎嗣生幹事の言葉をその後に実感することになります。

会報『榭』について、原稿集め、校正、印刷依頼、会員への送付、寄贈など殆んどお一人で作業されましたが、10 年余りの蓄積は 30 回の発行、合計 598 ページという膨大な情報量になりました。『榭』をひもとくと、思い出の場面が次々に出てきます。

まず、春と秋の研究会の充実です。外部の人や友の会会員に講師をお願いして、得意分野について解説してもらおうのですが、延べ 18 人が登壇しました。毛筆による演題の垂れ幕やパソコン、スクリーン等、演者が話しやすいようにする準備も怠りありません。早口で司会を務める姿が目には浮かびます。これを契機に友の会に入会していただいた方もいます。講演はその場限りで後に残らないことが多いのですが、山本会長は丁寧に文章化して、『榭』に掲載したので貴重な記録となりました。遺品のオルガンで「三毛の墓」演奏、作品朗読、寅彦の紙芝居、関弥生さんを偲ぶ座談会のように変化に富んだ研究会もありました。寅彦の論文「割れ目と生命」にある、猫の斑紋を写したぬいぐるみを再現（マジックテープでつなぎ合わせ出来る）していた事にとっても驚きました。

次に、他の団体との交流があります。平成 27 年 12 月、高知県立文学館で開催の「親愛なる寺田先生～師・寺田寅彦と中谷宇吉郎展～」における神田健三会長（中谷宇吉郎雪の科学館友の会）の「雪と氷のふしぎ」実験デモに協力し、南国の子供達に不思議を知ってもらいました。また、平成 30 年 10 月、鎌倉漱石の會が来高され、市内のゆかりの地を案内されました。記念館の畳に座って展示品の解説を聞き、文学館で「寅彦先生に学ぶ天災展」を見学、懇親会には大勢が参加して親睦を深めました。貸切りバスの最前列から振り向いて、観光名所や小津神社、江ノ口小学校、墓所をガイドしていた様子が懐かしいです。

特に力を入れたのが、会則にある「理科教育の推進と援助」に基づいて「高知市小・中学生科学展覧会」に協賛し、特賞に選ばれた研究の中で「寺田寅彦賞」と「寺田寅彦記念館友の会会長賞」のレポートを毎年『榭』に掲載することです。大きな模造紙何枚にもな



る報告は記念館に展示されましたが、表や写真をアレンジして『榭』に掲載しました。とても根気のいる作業です。また、児童を対象とした科学教室を開催して寅彦のことを紹介すると共に、工夫した実験を指導し参加者に喜ばれました。

特筆すべきは生誕 140 年記念の寺田寅彦銅像建立です。平成 24 年、友の会メンバーの集まりで宮英司副会長のつぶやき「銅像を建てましょう」に端を発し、翌年の総会で運動を進めようという提案が承認されました。事前折衝を重ね、平成 26 年 5 月に「寺田寅彦の銅像を建てる会」が発足しました。高知商工会議所の青木章泰会頭が会長に就任し、山本会長は事務局長を担いました。寄付金集め、税務対応、大野良一さんへの制作依頼、設置場所決定、広報など難しい交渉に関して、時には裏方になり、あるいは先頭に立って 5 年も活動を継続し、ついに平成 30 年 7 月 24 日、除幕式が執り行われました。台座の言葉や説明板の内容に関して、会員の面倒な意見も聞きながら取りまとめてくれました。式典や記念講演の詳細は『榭』第 83 号に掲載されています。再読すると奮闘ぶりが甦ります。

目立たないですが友の会の運営には会計が重要です。状況を把握し、会員増の方策や会費集めについて常に考えていました。記念館の委託管理者に名乗りを挙げて、受託を実現し、少しでも記念館が運営しやすくなるように心を砕いていました。

恒例行事として、寺田家墓所や祖先の墓の清掃に取り組みました。昨年 11 月と本年 2 月に、お一人で苔むしていた寅彦の墓、家族の墓の表面を清掃して見違えるようになりました。3 月には寅彦墓碑の拓本取りをしましたが大汗でした。今思えば、体調が良くないにもかかわらず責任感で作業をされていたのでしょう。

友の会で独自に記念館絵はがき、「光の模様」実験キット、館や庭園のガイドブック、寅彦随筆冊子類を制作し、記念館で販売できるように、市当局と粘り強く交渉し実現させました。本当に獅子奮迅の活躍です。

折り畳み豆読本や藪柑子検印スタンプ、高知新聞と読売新聞のデータベース検索等、思いつくと直ぐに実行するせっかちな会長でした。誰にとっても気さくに話が出来て、困ったことがあれば相談に乗ってもらえる、頼れる存在でもありました。今年 4 月の総会前から、お一人で背負っておられた役割を他の役員に分担するように働きかけておられましたが、これほど早く逝かれてしまうとは夢にも思わなかったことです。

寺田寅彦生誕 150 周年（2028 年）を目指した取り組みにもリーダーシップを発揮していただいたかったのですが、残念でなりません。心からご冥福をお祈り致します。

ご逝去を受けて、9 月 18 日に臨時幹事会（役員会）を開催しました。宮副会長から山本会長のご遺族のお言葉を伝え、故人を偲んで黙祷を捧げました。

寺田寅彦記念館の管理・運営の委託を高知市役所から受けている関係上、新たな代表者を早急に決める必要があり、臨時的に会長に宮英司副会長、副会長に宮崎嗣生幹事を充てることを決め、次期総会で承認を求め、会則の変更等を含めて協議していくことになりました。いずれ皆様に思い出を書いていただく機会を設けたいと思います。